Passion enlivens an area
ひろしまの力

新市場開拓と共に地域に貢献できる多角化経営に挑む

平岡直也代表取締役（写真左から2番目）と役員のみなさん。互いに知恵を出し合い、率先して行動することで志気を高めている。

高精度な彫刻やカットが可能なレーザー加工機の導入で新分野開拓に大きな弾みがついた。

自動車のシフトチェンジレバーのカバー部分など、レザー仕様部品の縫製・表皮張り込みを行う。平成18年に初めて外国人技能実習生を受け入れて以降、積極的に採用を続け、熟練工を育成している。

のどかな田園風景が広がる広島市北部の白木町に本社工場を構える株式会社アルファHIRAOKAは創業以来、主にレザー仕様の自動車内装部品の受託加工を手がけてきました。10年ほど前からは自動車関連企業への人材派遣事業も始動。スタッフ140人体制でフル稼働していましたが、新型コロナの世界的な大流行で状況は一転しました。自動車用の半導体不足や東南アジアからの部品調達停滞で、自動車メーカーが減産を余儀なくされたためです。「この1年半で工場を稼働できたのは約半年。自宅待機が続くスタッフのためにも、このまま手をこまねいていてはダメだと動き出しました」と平岡代表取締役。

そのような中で、同社のレザー加工技術に着目した医療器具メーカーからの打診を受け、ワクチン運搬用バッグや防護服、介護レザー用品などの試作に着手。今年7月には補助金等を活用し、精度やデザイン性を飛躍的に向上させる最新レザー加工機を導入し、自動車部品と医療介護分野の双方で受注拡大を狙います。

さらに、従来の事業とは全く異なる新しい試みも始めています。今年の夏、同社の有志8名が銃猟・わな猟免許を取得。地域の田畑を荒らすイノシシや鹿の駆除を兼ねたジビエ革製品を作れないかと動き始めました。加えて、地域の休耕畑や空き地を数力所借り受けて耕し、ニンニク栽培をスタートしたといいます。

「これらの試みは里山の荒廃を防ぐ意味もあります。事業として成り立つかどうかは未知数ですが、何ができるか、何をしたいか役員で話し合い、失敗を恐れずとにかくやってみようと。これまでと同じやり方で生き延びられる時代ではありませんからね」と平岡さんは明るく軽やかに語ります。

コロナ禍を契機に、同社はリスク回避という観点からの事業多角化、そして経済価値だけでなく社会価値を発揮する企業経営を模索し、新しいチャレンジに挑みます。

株式会社アルファ HIRAOKA
平成8年に前身のゲイビ設備を設立し、自動車内装部品の製造をスタート。平成24年からは自動車関連分野に特化した派遣事業も手がける。

広島市安佐北区白木町秋山3155-1
☎ 082-828-3323

レザーの縫製加工作業。自動化を進めているが緻密な手作業も多く、この技術を活用して新分野に挑む。

試作したワクチン運搬用バッグ。従来の分野に固執せず、コロナ禍や高齢化の進行で需要が高まる医療介護分野への新規参入が目下の目標だ。

白木本社や八千代事業所周辺の休耕畑や空き地を耕し、この秋ニンニクを植え付けたばかり。収穫は来年6月あたりだという。

イノシシの捕獲用に設置した箱わな。11月からは銃による狩猟も解禁となる。いずれは財布などのジビエ革製品も手がけたいと夢は膨らむ。

「食」や「命」の大切さ、地域文化を伝える交流の場に

「食べることは生きること。自然の恵みを味わい、感じ、学びあう交流を大事にしていきたい」と久保宏輔副社長。

今年から牛乳や乳製品のパッケージをリニューアル。家庭の食卓に馴染むよう優しいトーンで統一されている。

牧場面積は未開拓の原野も含め35ha。現在120頭の乳牛を、自家牧草をロールにして乳酸発酵させた餌で育てており牧草自給率は9割だが、2030年までに完全放牧を目指している。

広島市民には馴染みの深い乳業メーカー・砂谷株式会社は創業者の久保政夫氏が昭和16年に八丈島から乳牛を連れて帰郷し、酪農による新しい村づくりを目指したのが原点です。安心・安全にこだわり、自家牧草で健康な牛を育て、牧場内の工場で新鮮なうちに低温殺菌処理し、消費者に直接届ける宅配方式で地産地消型酪農を実践。ジェラート工房やカフェを併設した自社牧場「久保アグリファーム」は、年間約8万人が訪れる憩いの場所でもあります。

その牧場内に今年5月、地域の人達が主役となり、土地に根差した食文化や生活の知恵を伝えるためのシェアキッチンと産直市を設けた交流スペースが完成。コロナ禍に打ち勝ち、元気なまちづくりを推進する地域活動として市の支援事業に採択された取り組みを始動しています。「コロナ禍で実感したのが人とのつながりの大切さ。様々な世代の人をつなげ、やがて地域の枠を超えた広がりを生む場にしたいと、地域の有志で結成した高原の里・砂谷会で企画や準備を進めています」とメンバーの一人でもある久保副社長。

さらに、同社は従来の舎飼いから10年がかりで全国でも希少な完全放牧を実現する計画を掲げ、昨年秋から原野の開拓に着手したといいます。これらの新しい挑戦を後押ししたのは、たくさんのお客様の励ましの声。昨年4月の緊急事態宣言の際、納入先の多くが休業となり1週間で4トンもの牛乳が余る事態に。苦肉の策でドライブスルー販売をしたところ、SNSのみの告知にも関わらず千組もの人が励ましの言葉と共に牧場までわざわざ買い求めに来てくれたのです。

「多くの人の支えを実感し、構想を形にする気力が湧いてきました。祖父政夫の〝農の営みは命の営みである〟という想いを継ぐ僕たちの役割は、命のつながりを感じられる完全な循環型酪農を実現し、食べることの本質的な価値を皆さんと共有すること。ここに集う人達が生きてて良かったと思えるような場所を作りたい」と久保副社長は10年後の牧場風景に想いを馳せ、着々と歩みを進めています。

砂谷株式会社
昭和25年創業の乳業メーカー。製品には循環型農法を実践する砂谷地区の5軒の酪農家と自社牧場で搾乳した生乳のみを使用している。

広島市佐伯区湯来町大字伏谷1321
☎ 0829-86-1009

牧場内は散策自由。牛を間近で見ることができるほか、広場ではお弁当を広げたり、子ども達が自由に走り回る姿も。

創業者が生前暮らした建屋をリノベーションして誕生した交流スペース「NYU sagotani」。大好評の産直市は金曜～月曜開催。

この夏は近隣の養蜂家を講師にミツバチの生態を学び、巣蜜を味わう「無印良品」とのイベントが開催された。